

北大サークル津別と歩んだ10年

まちづくり振り返りトーク



【津別】政策提言などで町に関わり続けている北大と北大公共政策大学院の学生らでつくる団体が、設立10周年記念のトークイベントを行った。

ハルクは2016年、町主催の「まちづくりアイデアコンペ」に初代代表となった吉田匡克さんが参加したことをきっかけに結成。政策提言のほか、津別高との高大連携事業などに取り組んできた。本年度は町内の看板リニューアル案を検討し、情報誌作りを手がけている。

2月21日に町多目的施設

これまでと今後について語り合った「ハルク」10周年記念のトークイベント

設ウッドルームで開かれたトークイベントには町民ら約30人が参加した。活動を振り返る第1部には吉田さんから歴代代表のOB4人が登壇。「(メンバーや高校生が)自分の手を離れて、進歩する過程を見ることができた」

「現在の方がアイデアを最後まで形にしている」と振り返り、「津別が好きなのは、ずっと変わらない」と声をそろえた。第2部では現代表らに町内関係者も加わりトーク。津別高の島村真幸校長は「ハルクと関わることで生徒のコミュニケーション能力や考える力が伸びた」と感謝した。

当初からメンバーと交流してきた河本農場(津別)の河本純吾代表はこれまでの活動を評価しつつ、「代替わり時に毎回、

地域の課題などの引き継ぎができていない」と指摘。「地域で活動する人を介した引き継ぎもできるのでは」と提案した。

会場からは「地域の人

とメンバー、OBOGが緩くつながることができるところをつくってほしい」などの意見が出た。

(大原智也)